

冬の西穂丸山（2,452m）山行報告

【山行日】 201年1月9日

【集合場所】 岩舟支所 午前5時

【費用】 マイカー1台:参加費 14,000円

【メンバー】 CL:仙石、小川 計2名

【コースタイム】

岩舟支所 5:00—駐車場 9:30/10:00…

新穂高温泉 10:30++西穂高口 10:55/11:10…

西穂山荘 12:50/13:25…丸山 13:45/13:50…

西穂山荘 14:10/14:30…西穂高口 15:30/15:45++

新穂高温泉 16:10…駐車場 16:30—岩舟支所 21:30

例年この時期は、八ヶ岳に出かけていたが、今回はちょっと足を延ばし西穂独標を目指すことにした。

集合の予定を1時間早め、午前5時に岩舟支所を出発した。太田桐生インターから高速を飛ばし、松本インターで降りて新穂高ロープウェイの駅を目指す。ロープウェイ駅手前の登山者無料駐車場に車を止め、登山届を提出して乗り場へ。この時期は30分ごとの運転であるため、少し待たされたが、韓国からきたと思われる団体観光客と一緒に西穂高口に降り立つ。

周りは霧の中で眺望は望めなかった。準備を整え、西穂山荘へ向かって雪の中を歩きはじめる。幅広のトレースができていたため、入山者が多いことがわかる。トレースは良く踏まれているため、アイゼンをつけないで登り、約2時間で西穂山荘へ到着となる。

小屋で宿泊手続きを済ませ、食堂の片隅を借りて、持ち込んだ食材で簡単な昼食を取り、ちょっとホッとさせる。時間があるので、部屋へ入らずストックをピッケルに変えるなどの身支度を整え、とりあえず「丸山」を目指して稜線を登ることとする。西穂高岳への主稜線へ上がると強烈な風が行く手を遮る。しっかりフードをかぶり、バラクラバで頬を隠し、サングラスで目を覆う。周りは白一色の世界で、山と空が一体となっている。登山路は雪が吹き飛ばされ、雪面が固くしまった氷状になっているため、アイゼンが良くきく。20分ちょっとで「西穂丸山」に到着となった。この先も全く視界は無く、これ以上進んでも仕方がないと判断し、この場所を到達点と決めた。交代で写真を撮り、登ってきた道を引き返す。小屋に戻りリーダーと相談した結果、最終のロープウェイにも時間的に間に合い、また明日も荒天の予報であるため、宿泊を取り消し、今日中に降りることとなった。

下りはアイゼンがあった方が安全なため、ピッケルをストックに持ち替え西穂高口駅を目指して下る。途中わずかな時間ではあるが、雲が部分的にとれ、雪を纏った笠ヶ岳を拝むことができた。



最終一本前のロープウェイに間に合い、明るい内に車へ戻ることができた。時間的にも自宅へ帰れるため、とりあえず、平湯温泉で汗を流し、冷え切った身体を暖めた。松本市内で蕎麦の夕食をとり、来た道を引き返した。夜の10時過ぎに自宅へ帰りつき、無事山行終了となった。

小川 記